

## No. 2727改

御坂支脈から黒岳をつなぐ ロングトレイル？

### 鳥坂峠～釈迦ヶ岳～御坂黒岳

実施日 2015年5月30日(土)

天候 晴れ

リーダー 涌井 良明

参加者 涌井良明、石附智江、渋谷京子、中村友子、伊藤久雄、石原勝正、宇野輝代、徳山敬子、瀧澤きよの、石附恵理子、峯川弘子 計11名

費用 JR・富士急4,725円(新宿起算) 乗車券470円 入山料1,060円 計6,159円

タイム 石和温泉駅(乗車8:25/34~8:45) 鳥坂トンネル(9:15~20) 鳥坂峠(9:40) P1276(10:40) 金岩(11:30~35) 神座山(11:50~12:20 昼食) 釈迦ヶ岳(13:40~50) 府駒山(14:30~14:35) 日向坂(トンネル峠)(14:55~15:05) 黒岳(16:15~16:40) 御坂峠(17:10~17:20) 三ツ峠入口(18:10~15分乗車) 河口湖駅(18:35~19:10 富士急) 大月(20:00~17)

当初宿泊予定を、天気予報を考慮して日帰りに変更して実施した。

気になっていた御坂山塊北側の山稜を歩くことにした。

石和温泉からタクシーで鳥坂トンネル出口へ、昨年3月と同様に春日山登山口ゲート脇からスタート。少し林道を進み旧トンネル手前の山道へ、僅かな登りで鳥坂峠だ、昨年と違って木々の葉も茂り



甲府側の見通しもそれ程ない。今回は峠から導標に釈迦ヶ岳とある右の尾根を進む。道型

は歩く登山者が少ないことを伺わせるように、蜘蛛の糸や落葉が重なって薄い踏跡のようになっている所も見られる。一旦鞍部の旧道に下りて、NHKアンテナのある小ピークに登り、尾根を左方へ。樹林の道は直射光が遮られて暑くないのが助かる。

所々ヤマツツシが満開、緑の中でより一層美しさが増している様だ。しかし行程は徐々に行動を上げていくため楽ではない。120分の急登で1270mのピークで一休み、更にいくつか登降をして金岩を過ぎて神座山に到着、これから向かう釈迦ヶ岳がきれいな三角形を見せている。丁度昼時で日蔭で、着干



で日向で思い思いにランチになった。緑・青空・ツツジの赤と光の三原色に囲まれて今日唯一ゆったりとした時間だったかも知れない。



で日向で思い思いにランチになった。緑・青空・ツツジの赤と光の三原色に囲まれて今日唯一ゆ

たりとした時間だったかも知れない。

神座山からも登降しながら1552mピークへ、釈迦ヶ岳が壁のように立ち上がるように感じる。



僅かで最低

鞍部へ下って、ここから岩の混じった急登で一気に高度を上げていく、ロープの掛かる所もあるが、展望も良くなって、



見事な富士の姿にも励まされ、釈迦ヶ岳到着。富士は勿論ぐるり大展望のご褒

美はとっても有り難いのだが、行く手にはどっしりと、でかい黒岳の姿が。今日はまだあれを登らなければならぬと思うと・・・



取り敢えず展望を楽しみ、写真も撮って釈迦ヶ岳を後にする。鞍部までは岩やロープの箇所もあるが特に危険はない。

再び小ピークをいくつかで府駒山のピークに。すずらん群生地への分岐を過ぎ左下に林道を見るとやがて林道を通る日向坂峠(トノバイ峠)に降り立つ。

ここから標高差350mを登り御坂盟主の黒岳に向かうことになる。



林道を横切り登山道に入り、小ピークを越して上芦川分岐を過ぎて本峰へ300mの登りになる。夏の午後といった斜光が差し込む急登をひたすら上へ上へと体と持ち、一步の力を積み重ねて行く。急登だが今まで



と比べると歩き易く、じっくり一定ペースで登る。1時間10分ほどで350mを登り

切り、16時15分黒岳山頂に着く。まずは写真を撮って、南200mの展望台へ。本日のアルバイト代として河口湖を前景にドデカイ富士が待っていてくれた。こぶ

し会選定の絶景認定だね。

山頂に戻って一休みと下山のエネチャージ後、御坂峠へ向かう。御坂のメインス



トリート、急な下りもあるが快調に山高地図より早いタイムで御坂峠へ着き、気持ち良い峠でしばしリラックスタイムを



過ごしてから、三ツ峠入口BSへ下っていく。峠道だが登降する登山者も少ない

と思わせる道を下りきってR137のBSへ18時10分着。行動時間8時間55分総上昇量1444mを歩ききった。皆さんの脚力とスタミナに感服です。頼もしいメンバーと歩いて楽しくて良き山だったね。

おまけは小笠原付近の巨大地震(M8.1)で電車も止り、結局高尾で反省会。それでも電車動かず遠回りで帰宅は翌日になったが、これも思い出深い山行の証しかもね。たまにはロングトレイルもいいもんだ?? (もういいもんだってか!)

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・伊藤久雄/石原勝正)



環天頂アーチ